

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	アジア・イスラーム型発展径路をめぐる国際学生ワークショップの開催
<b>代表者名</b>	小杉泰(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)
<b>事業概要 (600 字程度)</b>	<p>本事業は、昨年度の「アジア・イスラーム型発展径路をめぐる国際会議開催に伴う教員招聘」事業の後継として、アジア・イスラーム型発展径路をめぐる問題群に関する国際学生ワークショップを、マレーシア国民大学イスラーム文明研究所(Institute of Islam Hadhari, Universiti Kebangsaan Malaysia、以下 IIH)にとの共催によって開くものである。</p> <p>大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(以下、ASAFAS)グローバル地域研究専攻には、持続型生存基盤論講座があり、これまで専攻全体で非ヨーロッパ型の発展のあり方を探究してきた。一方、本事業によってワークショップを開催する IIH は、アジア・イスラーム型発展径路に関する域内随一の研究拠点である。本事業での国際ワークショップの開催によって、非ヨーロッパ型発展径路におけるアジア・イスラーム型発展径路の可能性をより明確に打ち出すとともに、人類が直面する諸課題に対するアジア独自の解決策の提示が期待できる(「相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築(ミッション 3)」への貢献)。</p> <p>また、ASAFAS グローバル地域研究専攻は、本事業の提携先であるマレーシア国民大学イスラーム文明研究所と、2010 年度より継続的に研究交流を行ってきた。本事業による国際ワークショップの開催により、この関係はさらに深まることが期待できる(「国際的学際的協働による世界最高峰のアジア研究拠点の形成(ミッション 1)」への貢献)。</p> <p>本ワークショップでは、京都大学およびマレーシア国民大学の大学院生による研究発表を行わせるだけでなく、ワークショップの組織自体に両大学の大学院生を参画させることで、国際舞台での学術交流の経験を豊かにさせることをめざしている(「国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成(ミッション 2)」への貢献)。</p>
<b>成果の概要 (800 字程度)</b>	<p>本ワークショップは、2015 年 9 月 29 日から 30 日まで 2 日間にわたり、マレーシア国民大学イスラーム文明研究所にて開催された。親シンプオとしては、「International Symposium on Islam, Civilization and Science」が置かれ、マレーシア前首相 Abdullah bin Haji Ahmad Badawi 氏および小杉泰京都大学教授(長岡慎介同准教授代読)の基調講演に加え、日本側から 8 本、マレーシア側から 20 本によって構成された。ワークショップには、本事業からは、本学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の大学院生、足立真理が派遣され、インドネシアのイスラーム型喜捨から見たイスラーム特有のボトムアップ発展径路についての報告を行った。その他、他資金によって渡航した本学大学院生 4 名、およびマレーシア側から 10 名の大学院生も本ワークショップに加わった。</p> <p>ワークショップでは、西洋文明とは異なる独自性を持つイスラーム文明が、21 世紀の持続可能な地球社会の将来ビジョンにどのように貢献しうるかについて、アジア・イスラーム型発展径路に関する議論を絡めながら各セッションで活発な議論が交わされた。そこからは、イスラーム世界で急速に勃興しているイスラーム経済(イスラーム金融、ハラール製品、伝統的イスラーム経済制度の復興)が提起している特有の価値(公平性、道徳性など)は、欧米主導のグローバリズムを超越する普遍的な価値を提起しうるものであるという議論が複数の参加者から提起され、アジア・イスラーム型発展径路の具体的あり方として注目が集まった。また、来る時代における地球文明のあり方をアジアから発信していくためには、イスラーム研究とアジア学のより密接な交流が必要であるという意見も提起された。</p> <p>本事業の教育効果として、会議に参加した本学の大学院生が現地の教員・研究者と非常に積極的に研究交流を行っている光景が至る所で見られたのは特筆に値する。次世代の学術研究を担う大学院生に対して、今後もこのような機会を継続的に提供していくことの重要さとその効果の大きさを痛感させられた会議でもあった。</p>